

# 都市計画マスタープランの見直し骨子案について（見直しの視点）

## 見直しのプロセス

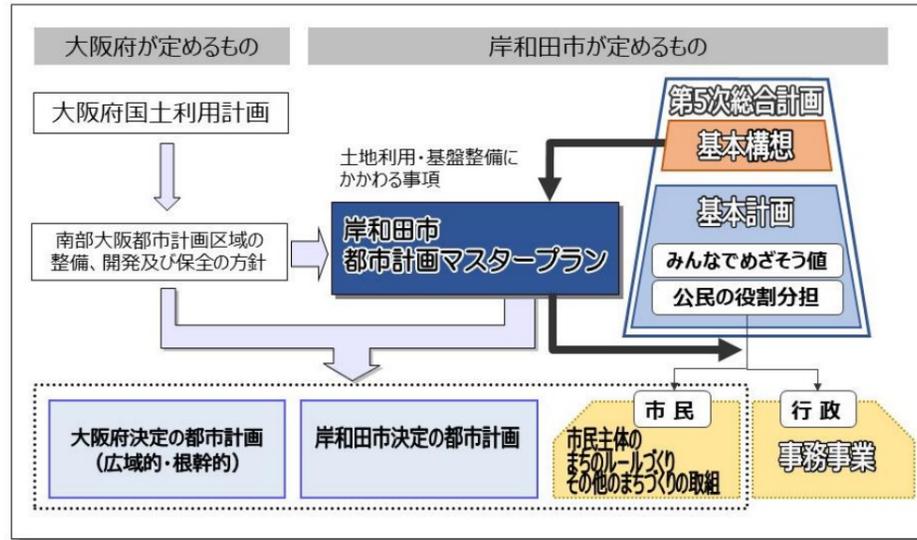
都市計画マスタープランの見直しは、第5次総合計画の策定と連携して行っており、各種調査やまちづくり市民懇話会についても総合計画の策定と一体的に実施しています。

## 計画の位置付けと役割

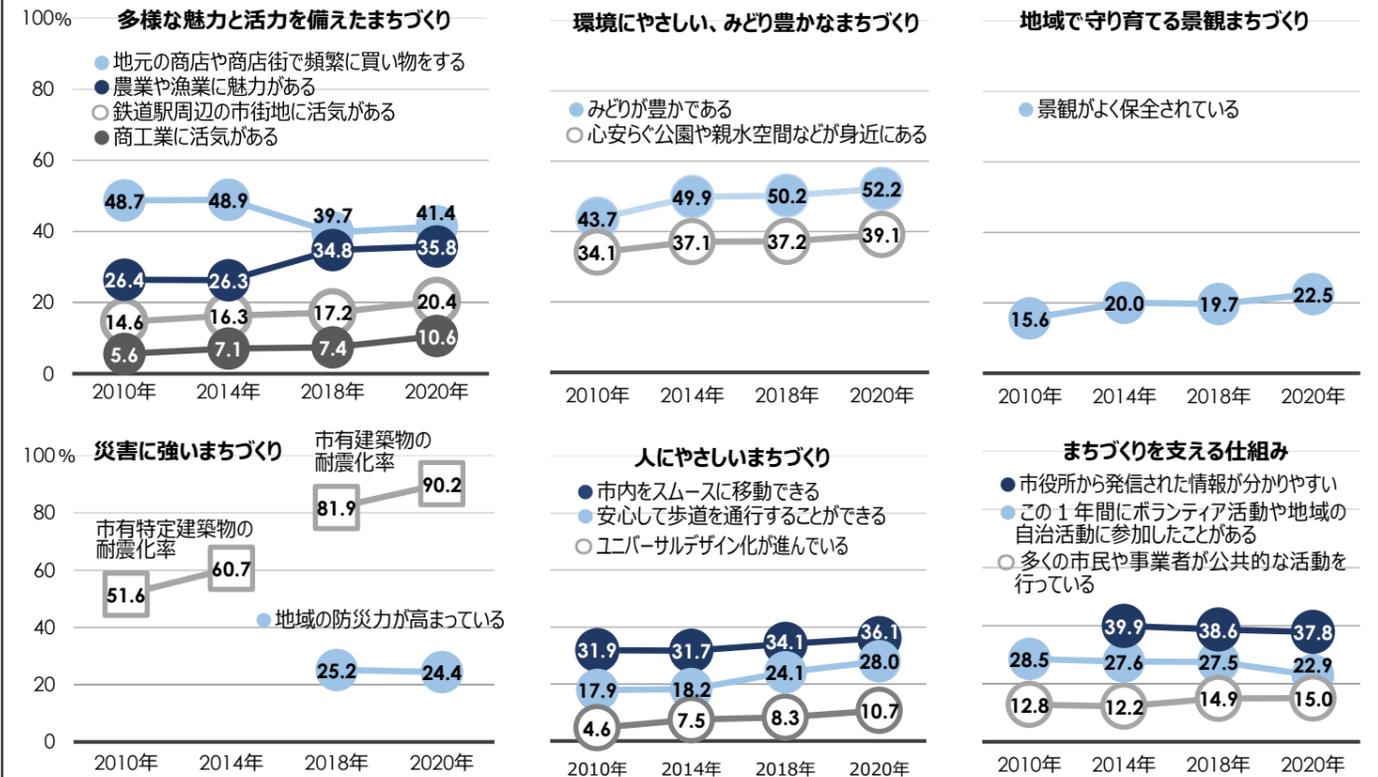
総合計画の基本構想を実現するために、土地利用や基盤整備を中心としたまちづくり方針を定めます。

本市が定める都市計画は、本計画に則すことが求められます。

また、地域でより詳細なまちづくりルールなどを定める際の指針として、都市計画制度によらないまちづくりの取組においても、市民・事業者・行政が共有する「まちづくり指針」としての役割を担います。



## 成果の達成度を測る指標の推移（市民意識調査結果）



## 骨子案（見直しの視点）

都市計画マスタープランに定める下記事項を中心に、「見直しの視点」を考慮しつつ、パブリックコメントでいただいたご意見や今後の第5次総合計画策定に向けた議論等を踏まえて、改定素案を作成していきます。

| 都市計画マスタープランの構成（現行）   | 見直しの視点（総合計画との整合）  | 見直しの視点（各テーマに横断的に反映）   | 【参考】第5次総合計画骨子案「都市構造」抜粋     |
|--|---|---|----------------------------|
| <b>1章-1. 土地利用計画の方針</b><br>1. 土地利用の方針<br>2. 都市計画交通施設の配置の方針<br>3. 都市計画公園の配置の方針<br><br><b>1章-2. テーマ別まちづくり方針</b><br>1. 多彩な魅力と活力を備えたまちづくり<br>2. 環境にやさしい、みどり豊かなまちづくり<br>3. 地域で守り育てる景観まちづくり<br>4. 災害に強いまちづくり<br>5. 人にやさしいまちづくり<br><br><b>3章. まちづくりを支える仕組み</b> | <b>見直しの視点（総合計画との整合）</b><br>総合計画基本構想骨子案<br><基本目標><br>○岸和田の次世代を育むまち<br>住みたい・子育てしたいと思える環境が整い、みんなが活躍できるまちづくり<br>○健康で自分らしく生きられるまち<br>多様性が尊重され、高齢者や障害者をはじめ誰もが健康で安心して生活できる環境<br>○安全で安心して暮らせるまち<br>地域で安心して暮らせるまちづくり<br>○人と自然が共生した住みよいまち<br>豊かな自然や生物多様性の保全と、まちの美化の促進や環境に配慮した行動<br>○賑わいと活力を創造するまち<br>地域資源（人・モノ・取組など）を活かした交流促進と産業の発展<br>生活を支えるさまざまな機能の拠点への誘導とアクセス性の向上<br>広域連携による賑わいの創出<br>○みんなでつくる持続可能なまち<br>誰もが地域づくりに参加しやすい環境の確保<br>広域連携なども活用した持続可能で健全な行政運営<br><3つの戦略><br>○多様性を尊重しあう岸和田の絆の発展・活用<br>○海から山までの多様な地域資源の活用<br>○時代を先取り・リードする先端技術の活用 | <b>見直しの視点（各テーマに横断的に反映）</b><br><生活利便性・快適な住環境><br>・日常生活サービス機能の適切な配置・集積を誘導、無秩序な居住地拡散抑制<br>・交通インフラの持続的な仕組みづくり<br>・地域の特性・課題に応じた対応策の検討（空き家等の利用促進、まちづくり制度の活用など）<br><健康・福祉><br>・交流や活動の促進<br>→ ・日常生活サービス機能の適切な配置・集積を誘導<br>・交通インフラの持続的な仕組みづくり<br>・公園や広場の有効活用<br>・農地の利用促進（新たな賃貸借制度の活用など）<br><安全・安心><br>・災害リスクの低減に向けた多様な取組（災害レッドゾーンの新たな建築抑制・災害イエローゾーンでの対策促進、避難場所など災害時の応急・復旧対策機能の適正な配置、既成市街地の適切な更新を誘導など）<br><地域・経済><br>・日常生活サービス機能の適切な配置・集積を誘導、無秩序な居住地拡散抑制<br>・工業・流通施設の適切な配置・集積を誘導<br>・交通インフラの持続的な仕組みづくり<br><行政運営><br>・人口減少・高齢化の進行に対応した効率的・効果的な行政経営<br><協働><br>・協働・連携の仕組みを再構築し、誰もが活躍できるまちづくり | 【参考】第5次総合計画骨子案「都市構造」抜粋<br> |